



グループ全体のガバナンスの改善と強化に向けた有識者委員会の報告書 本質を理解し健全な企業を創造しよう!

グループ全体のガバナンスの改善と強化に向けた有識者委員会の報告書が出され、それに基づいた具体的な改善策として全社員教育が実施されています。

報告書では社員の約6割が経営者の姿勢や経営のあり方に疑問を持つ回答、上司はコンプライアンス重視を求める一方で部下の取り組みを評価しない、フォローが少ないなど「上司自身のコンプライアンスへの理解の不足・違反」が多く挙げられています。匿名のため真偽不十分としつつも「パワハラ・セクハラ・情報管理違反・不正経理・汚職」も指摘されています。不適切事象についての社員説明が少ない、という意見もその通りで、現在会社が行なっている全社員教育においてもなぜこれら不祥事が発生してしまったのか、については一切触れられていません。

報告書ではコンプライアンス教育受講率100%を評価しつつも昨今の不祥事発生件数を考えると必ずしも実行的な教育になっていない可能性も考えられる、具体的なルールの確認等が多いと推測され、社員個人が具体的に考える機会が充分にあるのか疑問が残る、と教育の内容を見直す問題提起と共に、改善策の方向性として①行動規範の確立 ②心理的安全性の確立 ③阻害するものへの抑止策 ④継続的モニタリング ⑤本気度を行動で示す、と展開されています。結語にある今回のアンケート調査には多くの社員から率直な意見が集まった、それは良い環境への期待・救いを求める声。組織的・規定上の課題等も示したが「人の心」が一番重要 の通り、全社員の心をひとつに健全な企業を創造しましょう!

形式的な全社員教育でお茶を濁すことなく
社員の心動かす経営陣の姿勢を示すべき!